

生育診断ほ調査結果と今後の管理

令和7(2025)年8月6日

那須農業振興事務所

- ・ **出穂期**：北部は前年より4日早く、南部は前年並
- ・ カメムシ防除と、出穂後30日以降の落水を徹底
- ・ 収穫適期は帯緑色籾率で判定し、刈り遅れに注意

1 生育診断ほ出穂期調査結果

調査地点		移植日	出穂期	成熟期 (R7年産は予測値)
北部	R7年産	5/10	7/29	9/9
	前年値	5/10	8/2	9/11
	平年値	5/10	8/4	9/15
南部	R7年産	5/2	7/22	9/3
	前年値	5/1	7/22	9/3
	平年値	5/3	7/25	9/6

※調査地点：北部は那須町寺子丙、南部は那須塩原市一区町

南部は前年と栽植密度が異なるため、前年値は参考値

平年値はR2～R6の5か年から算出し、R7年産の予測成熟期は、出穂期～成熟期の日数の平年値から算出

- ・ 出穂期は、北部で前年より4日早く、南部で前年並であった
- ・ 成熟期^{*}は、**北部で9/9、南部で9/3と予測**(8/4現在)
- ※成熟期：帯緑色籾率が5%の時期(帯緑色籾率については裏面を参照)

2 今後の管理

(1) カメムシ対策

- ・ 斑点米による等級落ちや、イネカメムシの加害による不稔を回避するため、**防除を徹底する**
- ・ 薬剤散布による地域一斉防除が基本で、発生が多い場合は追加防除を検討する



写真：栃木県内で水稲に加害する主なカメムシ類

左からクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、イネカメムシ
(イネカメムシ以外の写真は栃木県農研センター提供)

(2) 水管理

- ・玄米の発達は出穂後約 30 日まで続く→**落水は出穂後 30 日以降**を目安に行う
- ・高温になると、胴割米や白未熟米の発生が多くなる傾向がある
→異常高温時は地温低下を目的とした水管理（可能な限りかけ流し、夕方かん水等）を行う



左：胴割粒（栃木県経営技術課）
右：白未熟粒（左から乳白粒、背白粒、腹白粒）（農水省）

被害粒の発生助長条件

- ・胴割粒：出穂後 10 日間の最高気温の平均が 30℃以上
- ・白未熟粒：出穂後 20 日間の平均気温の平均が 26℃以上

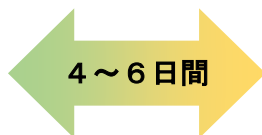
(3) 収穫

- ・収穫適期は、**必ず帯緑色籾率***で判定する
※帯緑色籾率：不稔を除いた全籾に対する緑色籾の比率
通常、1日あたり2ポイント低下するとされる
- ・帯緑色籾率は必ずほ場内の複数箇所で確認するよう注意する
- ・収穫開始：10%頃、収穫終了：3%頃

表面の調査結果に記載した
成熟期は、**帯緑色籾率が5%の時期**



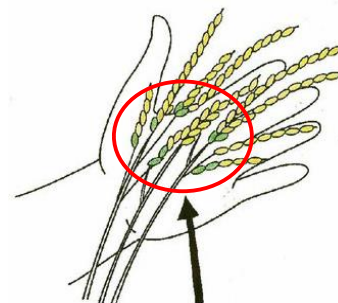
帯緑色籾率 10%頃



4～6日間



帯緑色籾率 3%頃



帯緑色籾率の見方

平均的な生育箇所の穂を5～6本握り、うっすらと緑色した籾の割合で判断する。

【注意点】

- 今後も気温が高い確率が高いです（気象庁1ヶ月予報、7/31発表）。
猛暑の場合は、刈り取り適期の判断が難しくなりやすいです。また、葉や枝梗は緑色でも籾はすでに黄色に変化し、収穫適期を過ぎている場合があります。
ほ場をよく観察し、刈り遅れることがないように注意しましょう！
刈り遅れは、胴割粒等の発生による外観品質の低下だけでなく、食味の低下にもつながります。

7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

夏の農作業で、以下のことに気をつけましょう。



- ・日中の気温の高い時間帯の作業は控えましょう。
- ・こまめな休息、水分補給を行いましょ。
- ・体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょ。